

道頓堀界限における過去と現在

復建調査設計株式会社 正会員 ○福田 明文
 大阪大学 橋爪 節也
 大阪工業大学 正会員 吉川 眞
 大阪工業大学 正会員 田中 一成

1. はじめに

江戸期から戦前まで、道頓堀界限は歌舞伎などが興行される演劇の街として栄えてきた。その歴史は江戸時代に舟運や利水のために堀が開削された後、界限の街づくりが始まったとされている。とくに、大正時代は近代建築が入混じり、モダンで華やかな文化が誕生した名実共に大大阪時代の象徴であった。ちなみに大正14年に大阪市の人口は東京市を抜いて日本最大となり、昭和7年に大東京が形成されるまで日本最大の都市を形成していた。

大阪では昭和に入っても堀が開削され水都と称されてきた。しかし、第2次世界大戦後近代化が急激に進むにつれ、多くの堀川が埋立られた結果、画一的な都市が形成され歴史性や地域性が失われることとなった。堀川の埋立は「水都大阪」のイメージを変容させてきたが、現存する道頓堀は今も水都を象徴する貴重な堀川である。

2. 研究の目的と方法

近年のまちづくりでは、ストックされてきた歴史環境を再構築することで、地域の再生に結び付けていくリノベーション（Renovation：修復型開発）方式が盛んとなり、都市のアイデンティティを継承することが強く求められている。リノベーション方式の都市開発が浸透するにつれ、各地で自然・歴史・文化・風土などを尊重し、かけがえのない固有の資産として再評価し、まちづくりの核として活かす取り組みが行われている。つまり、生産性や効率性を求める都市開発ではなく、歴史環境の継承や地域のアイデンティティの確立をキーワードにした質の高い社会基盤の整備が求められている。

そこで、本研究では都市や地域の歴史環境が失われると同時に、アイデンティティが喪失されてきたという現状認識のもとで、GISとCAD/CGを統合的に用いてさまざまな空間データを融合し、地域特性の抽出や歴史的景観の復元を試みている。さらに、復元された歴史環境をデジタルアーカイブとしてストックすることにより、将来の資産として蓄積すると同時に新たな歴史的史料となることもめざしている。

3. 道頓堀の起源

道頓堀は、木津川と東横堀川の間位置している（図-1）。その歴史は、豊臣秀頼によって開削を命じられた安井道頓とその弟である道トらが私財を投じて開削された後、家屋などの建設が行われ、1626年には勘四郎町（現在の南船場周辺）から芝居小屋などが道頓堀の南側に移設されたとされる。また、浪花座・中座・角座・朝日座・弁天座は道頓堀五座と呼ばれ、演劇を楽しむ人々で日々賑わっていた。道頓堀界限には、この五座を中心にこれらに付随した芝居茶屋などの飲食街も含まれる。角座の閉館によって、五座は全て消失したが、道頓堀界限は現在も大阪有数の繁華街である。



図-1 道頓堀界限

キーワード GIS CAD/CG 歴史的景観 地価

連絡先 〒732-0052 広島市東区光町2丁目10番11号 復建調査設計株式会社 TEL 082-506-1836

4. 地価マップ

本研究では人が集まる地域や場所は必然的に地価が高くなることに着目して，大大阪時代と現代における道頓堀界隈の価値・重要性を位置づけるために地価マップの作成を行っている（図-2）．大大阪時代の地価マップ作成の史料として用いたのは，1911年（明治44年）に発行された「地籍台帳・地籍地図〔大阪〕」の復刻版である（図-3）．この地籍地図の原版は大阪で初めて出版されたものであり，その出版背景は市街地の急激な膨張に伴って地価が高騰し土地売買が盛んに行われ，大都市において土地の経済的重要性が高まったため，その権利者を示す地籍地図・台帳が必要となったからである．

一方，現代の地価マップは個々の敷地に対して地価の算出が可能である路線価を用いて作成している．くわえて，明治時代と現代の貨幣価値が異なるため，銀行員の初任給をもとにして貨幣価値の換算を行っている．

5. 3次元モデルの構築

大大阪時代の3次元モデルの構築では，まずGISを用いて旧版地図を幾何補正し，現代空間上に建物敷地を定位している．その敷地に，スケッチなどを参考にして作成した建物モデルを配置することにより3次元都市モデルの構築を試みている（図-4，5）．一方，現代都市モデルは，大阪市デジタルマッピング（DM）データから抽出した建物ポリゴンとLIDARデータをオーバーレイさせ，建物ポリゴン内に含まれるLIDARデータの最頻値を建物高さとして与え，DMデータの2次元建物モデルを立ち上げることで3次元都市モデルを自動生成している．

6. おわりに

過去の地価マップを作成し，現代と対比することによって，位置的な重要度の抽出ができた．また，大大阪時代と現代の都市モデルの構築は，道頓堀の文化的価値を見出す素地を与えることができると考えている．また同時に，得られた知見や成果は，GISやCAD/CGによって視覚化されているために，一般市民でも直感的に把握できる．地域性・歴史性を考慮した地域の活性化やまちづくりに，行政だけでなく，地域住民の参画を促し，次世代に引き継ぐ都市デザインの創出の支援になることを期待している．

参考文献

- ・地籍台帳・地籍地図〔大阪〕 柏書房 2006
- ・橋爪節也 モダン道頓堀探検 創元社 2005



図-2 地価マップ（大大阪時代）



図-3 地籍台帳・地籍地図



図-4 3次元モデル（道頓堀通）



図-5 3次元モデル（宗右衛門通）